

『2021 年度 退院支援研修②』

◆テーマ：『介護報酬改定と在宅療養支援診療所の機能について学ぶ
～介護保険制度の方向性や在宅療養支援診療所の機能を読み解こう!!～』

◇日時：2021年11月27日（土）14：00～16：00 オンラインにて

◇内容：【講義】

- 「令和3年度介護報酬改定対応 科学的介護の基礎知識
科学的介護の考え方と目的を学ぶ」

講師：天晴れ介護サービス総合教育研究所 榊原 宏昌 氏
介護報酬改定の影響をふまえて、介護保険制度についてどのような変化があり、どのような方向に進んでいるのか、科学的介護の概念、LIFE 関連による変化(老健・特養・在宅など)についての講義を受けた。

- 「在宅療養支援診療所の MSW の役割と実践」

講師：木の香往診クリニック 鈴木 秀季 氏
在宅クリニックの MSW の役割や実践内容、在宅での診療報酬での位置づけなどについての講義を受けた。

【グループワーク】

◇内容：講義の内容を踏まえて、在宅医療とどのように連携しているのか、また在宅医療との連携の中での課題や対策についての取り組み等について話し合い、その内容を参加者で共有した。

◇参加人数：20名

◇アンケート

コメント紹介◇ ～一部抜粋～

- 病院で在宅調整を行う中で、在宅医療機関において MSW がどのような役割を担っているのか興味を持っていたが、実際に働いておられる方のお話を聞いて、とても興味深かった。特に、診療報酬との兼ね合いで、在宅でも社会福祉士が在籍していることに対して評価が得られ始めているように感じられて、今後も、ますます在宅でも MSW が活躍できるようになるとよいなと思った。(一般 3～5年未満)
- LIFE の意味を初めて理解することができました。介護サービスの世界に、PDCA の考え方があることに驚き、介護を受けるだけではなく、介護を受けて何が変化したかに着目する考え方を知りました。在宅医療に関しては、診療報酬を知り、業務に活かせると思いました。(総合 10～15年未満)
- 科学的介護については、介護の現場に限らず医療からの適切な情報共有が必要となると思います。医療機関から患者情報を共有することが次の生活をより豊かにする、更にその情報を可視化することでデータ化出来る事に驚きました。在宅診療については、訪問診療へ繋ぐ MSW や退院支援 NS の情報共有にかかっていると思います。退院支援の中で医療機関内の情報をいかにお伝え出来るか、退院前カンファレンスを実施する重要性を非常に感じました。この研修において、他院の話をつないで連携の大変さや苦労を共有することが出来ました。(一般 3年～5年未満)
- 病院から在宅に繋いでいく上での MSW の役割を考え直すきっかけになりました。患者・患者家族の在宅での目的や病状理解のすり合わせを、より丁寧に支援していくことが大切と感じました。”科学的介護は介護の専門性の一部分であること”という榊原さんの言葉がしっくりきました。標準化である部分と個別的であることの両立の大切さを学ぶとともに、その両立を現場で実践する難しさを想像しました。大切なことは、こうした根拠を軸に現場に活かすことと感じました。また、鈴木さんの講義では在宅への移行においての病院から在宅への変換支援にハッとさせられました。現場で、いかに在宅の MSW へ任せきりにしていたかと反省しました。丁度、来週に退院前カンファレンスを控えています。変換支援により意識を向けて患者・患者家族の意向の確認や在宅で過ごす目標を多職種で共有できる場にできるように支援を進めていきたいと感じました。(総合・一般 1年～3年未満)
- 科学的介護について、質の評価を進めようとしていることや CHACE, VISIT や LIFE と

いう情報を集めて評価しようとしていることを知った。また、プロセスは一定程度標準化してそれ以上は個別化していく、ということはより良い支援のため必要と感じ、していきたいと思った。「在宅療養支援診療所の MSW の役割と実践」のほうでは、具体的に何をしているか、どの視点で動いているか、病院から在宅療養支援診療所への「変換部分」を「発見」「提案」「変換作業」という言葉で説明していただき、わかりやすかったです。在宅側の点数のことも勉強になりました。ありがとうございました。(地域包括・一般15年以上)

- 恥ずかしながら、科学的介護という言葉をはじめて聞きました。根拠を持ってケアを行うことが重要と先生が言われており、大変納得しました。私たちの支援も、根拠を持って行わなければそれは専門家ではないと改めて実感しました。(総合10年~15年未満)

退院支援研修②について

退院支援研修委員会 山下純子

今回の研修では、2021年度介護報酬改定の内容、特に科学的介護について理解を深め、介護保険の今後の方向性を確認することと、在宅療養支援診療所の実際と MSW の役割について理解をする目的で企画した。前半の講義では、科学的介護についての理解だけでなく、そこからより医療と介護の情報共有が重要であること、MSW も同じく専門家として業務内容に根拠が必要であるなどの MSW 業務に引きつけて理解された方も多く、聞きなれない科学的介護の内容の理解が深まったと思われる。後半の講義とグループワークでは、まず在宅医療との連携を行うにあたり理解が必要な診療報酬上の位置づけや MSW の役割をわかりやすく講義していただき、それをふまえてグループワークで在宅医療との連携について考える形とした。患者の状況に合わせて在宅療養の環境を整える役割が在宅医療 MSW の醍醐味という話は興味深く、アンケートでも高評価であった。しかしグループワークの時間が短いという意見もあり、毎回時間のバランスに苦慮しているが、今後の検討課題としたい。